

令和7年度 第2回 堺市スポーツ推進審議会 会議要旨

1. 日 時 令和7年10月24日（金）午前10時00分から
2. 場 所 堺市役所 本館12階第1・2委員会室
3. 出席委員 三宅孝昭会長、神谷拓副会長、大西公彦委員、中野貴文委員、
渕上猛志委員、石田浩史委員、氏林勉委員、香西千尋委員、
名里陽委員、林孝浩委員、本田奈津子委員、松井学委員、森内敬司委員
4. 欠席委員 池島明子委員、池田義枝委員、泉谷浩幸委員、清水万理委員
5. 堺市出席者 文化観光局長、スポーツ部長、スポーツ推進課長、スポーツ施設課長、
スポーツ推進課長補佐、スポーツ施設課長補佐、スポーツ推進課企画係長、
スポーツ施設課施設係長、スポーツ施設課管理係長、スポーツ施設課主査
学校保健体育課長、地域教育振興課長
6. 傍聴者 2人
7. 議題
 - (1) 第4次堺市スポーツ推進プラン（素案）について
 - (2) その他
8. 配布資料 資料① 会議資料
資料② 第4次堺市スポーツ推進プラン（素案）
資料③ 第4次堺市スポーツ推進プラン（骨子）
9. 質疑応答

【石田委員】

部活動の地域展開をするうえで、指導者の確保及び受益者負担の低減が課題である。学校の部活動を外部に展開するだけでなく、コミュニティスクールを活用し、学校と協議しながら進めていけばいいのではないか。

【事務局】

コミュニティスクールについては、現在検討中であり、具体的な話まで至っていない。ご意見の一つとして承る。

【三宅会長】

資料②P30 の「総合型地域スポーツクラブへのスポーツ指導者派遣」とは具体的に何をさしているのか。

【事務局】

トップレベルチームとの連携強化という部分で記載しており、トップレベルチームから現役選手を含めた指導者を派遣していただくという想定で記載をしている。

【石田委員】

部活動の地域展開の最終目標を、どこに置くかが非常に重要であるが、すでに何か定めているのか。

【事務局】

国の改革実行期間である 6 年間を見据え、取組を検討しており、国の方針性を見ながら徐々に進めている。まずは、休日の部活動の地域展開・地域連携を進めていきたい。

【石田委員】

部活動の地域展開の最終目標について、先に議論した上で決める方がいいと思うが、その 6 年の間に施策を実施しながら決めるのか。

【事務局】

まずは、現実的な形で、休日の方から進めていきたい。進めていく上で、課題等が出てくると思うので、改善しながら進めたい。

【神谷副会長】

最終目標を決めて進むことはわかりやすいが、子どものスポーツ・運動活動の確保が一番大切なこと。まずは、体制の整備が必要ではないか。

【渕上委員】

堺市内には 43 中学校区あるが、校区によってばらつきがあるため、一律の考え方ではなく、地域に応じた取組がいいのではないか。また、一部の校区をモデル校にして実際にいながら検討すればいいのではないか。

【事務局】

スポーツ部だけでなく、教育委員会でも計画を策定中で、両方にそれぞれ書けることがある。そのうえで、子どもたちがスポーツ・運動をする機会を確保することができるよう、建設的な議論をし、連携していきたい。

【中野委員】

ワールドマスターズゲームズ 2027 関西やアーバンスポーツの認知度が低いという現状をどうとらえているのか。

【事務局】

認知度を高めていくため、各区で開催される区民まつりやスポーツ大会等での周知や、大会アンバサダーと連携して周知していきたい。

【中野委員】

ワールドマスターズゲームズ 2027 関西の PR について、こども向けの周知や教育委員会と連携した周知はしているのか。

【事務局】

ワールドマスターズゲームズ 2027 関西は、概ね 30 歳以上のスポーツ愛好家が参加できる大会であるが、こどもにも見てほしいと思っている。今後は教育委員会等とも連携し、引き続き周知していきたい。

【三宅会長】

アーバンスポーツについて、原池公園にスケートボード施設があるが、普及拡大に向けた取組を行っているのか。

【事務局】

過去に初心者でも参加しやすいスケートボード体験会を開催するなど、イベントを実施している。また、指定管理者が自主事業として、体験会などを実施している。今後も連携して、体験会やイベントを実施する必要がある。

【三宅会長】

他局にも公園や施設を所管している部署があると思うが、そういった部署との連携はどうしているのか。

【事務局】

堺市のスポーツに関するプランということで示しているため、今後も引き続き、各所管から意見等を聴取しながら、連携して取組を進めていく。

【渕上委員】

前回申し上げた、こどもや若者の意見を聞く機会を設けてもらったことはありがたい。次の段階として、アンケートで出た意見をプランの中に反映し、今後の取組に活かしてほしい。今後も引き続きこどもや若者の意見を聞く機会を設けてほしい。

【神谷副会長】

子どもの政策に関することに子どもの意見を反映させていくことは、子ども基本法にも記載があるので、重要であると思う。プランの中に「子どもの意見を聞く」旨の記載をすればいいのではないか。

【事務局】

子ども向けのイベント等を実施する際にはアンケートを取るようにし、できる限り子どもの意見を取り入れるようしていく。プランへの記載についても、意見を踏まえ、どういった形で表現できる検討する。

【松井委員】

平日の夜間や休日における学校体育館の利用者が多いが、大規模スポーツ施設の目標値の中に学校の施設は入っているのか。

【事務局】

目標の中の大規模スポーツ施設とは、J-GREEN 堺、大浜だいしんアリーナ・だいしん大浜武道館、くら寿司スタジアム堺です。

【松井委員】

市民オリンピックには、小学6年生が出場することが多いが、最近の傾向として、児童が休日に参加することが難しくなっている。また、堺市で大きな大会やプロの試合があっても、子どもたちの家庭環境によって、体験できない子もいる。可能であれば、プロ選手に学校に来てもらって、目の前でプロのプレーを見せてあげるなど、学校を活用した取組があればいいと思う。

【事務局】

現在も日本製鉄堺ブレイザーズをはじめとするトップレベルチームの選手に体験教室といった形で学校に行く取組も行っている。今後も引き続き、連携した取組を行っていく。

【本田委員】

堺市にある健康プラザは障害者の利用は多いが、不登校の子どもにも発信して、もっと利用してもらいたい。

【事務局】

担当部局と連携して、検討する。

【林委員】

あまり運動をせず、家にいる高齢者が増えてきているため、気軽に運動できる施設や機会を設けてほしい。

【事務局】

体育館トレーニング室の講習料を初回無料にするなどの取組を行っている。引き続き、プランに掲げているライフステージに応じた取組を進めていく。

【渕上委員】

堺市としては市民の運動習慣をつけたい、アンケートでは施設を増やしてほしいとの回答が多いので、どっちも取るためには、施設増やすしかないのではないか。

【神谷副会長】

スポーツ施設を増やすことは賛成であるが、2014年に総務省が公共施設を減らす方針を出している。スポーツ施設を増やすにしても、どのニーズがどの程度あるのかということは把握しておく必要があるのではないか。

【事務局】

財政負担の観点からも施設を増やすということは簡単には言えないが、市内にある民間施設とも連携して、スポーツ・運動の機会を設けたい。また、利用者のニーズ把握のために、アンケート等の実施について検討する。

【神谷副会長】

障害者スポーツ等の情報について、必要な情報がきちんと届いているかどうか調べたことはあるのか。

【事務局】

他課で実施しているものなので、詳細については確認しないとわからないが、必要な情報については、発信されていると認識している。

【神谷副会長】

おそらく、この情報にアクセスできない人がターゲットになるため、今までの情報発信だとミスマッチが生じていると思われる。今までの方法を他部署と連携して見直した方がいいのではないか。

【中野委員】

プランを作成する中で、大阪府と連携しているのか。

【事務局】

直接の連携はしていないが、スポーツ庁の計画を踏まえた上で、プランを作成している。
普段の取組については大阪府と連携して取り組んでおり、今後も引き続き継続する。

【林委員】

南大阪をさらに活性化させるためにも、今後も是非大阪府と密に連携を取ってほしい。